

第12回 衛生薬学担当教員会議 議事録

1. 日時： 平成30年3月1日(木) 14:00~17:40
2. 場所： クレメントホテル徳島(徳島市)
3. 出席者： 80名(別紙に出席者名簿)
4. 組織： 委員長 姫野誠一郎(徳島文理大学薬学部)
幹事：小椋康光 教授(千葉大学), 鍛冶利幸 教授(東京理科大学), 佐藤雅彦 教授(愛知学院大学), 永瀬久光 教授(岐阜薬科大学), 中山和久 教授(京都大学), 藤本陽子 教授(大阪薬科大学)
5. 議題
 - (1) アンケート調査の結果紹介
 - (2) 講演1：NST活動で必要となる臨床栄養の基礎となる知識について
名和秀起 先生(岡山大学病院薬剤部・副薬剤部長)
 - (3) 講演2：健康寿命延伸におけるフレイル予防の重要性と栄養戦略
葛谷雅文 先生(名古屋大学医学部・地域在宅医療学/老年科学・教授)
 - (4) 衛生試験法に関する話題
佐藤雅彦 教授(愛知学院大学) / 神野透人 教授(名城大学)
 - (5) その他
6. 配付資料：
 - ・議事次第
 - ・席次表
 - ・参加者名簿
 - ・PowerPoint ハンドアウト
 - アンケート調査のまとめ(姫野)
 - 名和先生 講演資料
 - 葛谷先生 講演資料
7. 情報交換会(17:50~19:50)
会場：クレメントホテル徳島

8. 会議内容

今年度の衛生薬学担当教員会議では、平成 25 年度改訂の薬学教育コアカリキュラムで新たに加わった SBO「疾病治療における栄養の重要性を説明できる」について重点的に意見交換するため、1. アンケート調査とその結果の紹介、2. 疾病栄養に関連する講演 2 題を行った。

(1) アンケート調査の結果紹介 (報告者：姫野誠一郎)

アンケートでは、栄養全般、および、上記の SBO に関連する講義を行っている講義・実習について、必修・選択ごとに科目名、学年、講義内容、工夫している点、医療系の科目・教員との連携について、無記名で調査した。

また、平成 29 年 11 月に行われた担当教員会議中央会議において、新コアカリキュラムについて継続的な議論が必要ではないか、との話題があったため、衛生薬学が関わる項目((D1 健康と D2 環境)について、自由な意見を寄せてもらった。国・公・私立大学薬学部の 74 校すべてから回答を得た(回収率 100%)。

その結果、多くの大学において、栄養に関連する科目は 2, 3 年生で講義していること、過密なカリキュラムの中、栄養全般について教えるだけでせいっぱいなため、アドバンスト科目や選択科目を使って疾病治療と関連する栄養について追加的に講義している大学が多いこと、医療系の教員との連携はあまり行われていないことが分かった。この新しい SBO に対応した教科書がまだ少ないことなども指摘された。日本薬学会編集のスタンダード薬学シリーズにおいて、疾病治療と栄養に関する SBO として記載されている内容(NST の意義、経腸栄養など)について、それぞれの項目ごとに教えているかどうか調査した結果、ほぼカバーしている大学とほとんど対応できていない大学との差が大きいことが分かった。

アンケート結果をまとめた姫野より、栄養に関する教科書の記述が生化学の焼き直しになってしまっていること、現場の NST で必要とされる栄養に関する基礎が大学できちんと教えられていないこと、医学・薬学教育全般で栄養が軽視されている傾向があることの指摘があった。

衛生薬学が関与するコアカリキュラム全般については、現時点で積極的な変更、追加、修正を求める声はほとんどなかった。しかし、個別の項目についてはなぜアドバンスト項目になったのか、など、疑問の声もあった。これについては、来年度以降も継続的に意見収集を続けていくこととした。

(2) 講演 1 : NST 活動で必要となる臨床栄養の基礎となる知識について

岡山大学病院薬剤部副部長の名和秀起先生より、薬剤師が関わる NST の現場の事例に基づいて、臨床栄養の基礎に関する講演を行っていただいた。NST 活動における薬剤師の役割、栄養評価の具体的方法、栄養補給におけるアミノ酸、脂肪酸などの意義、がん患者に対す

る栄養補給の実際などについて説明があった。

衛生薬学で基礎代謝などとともに教えている呼吸商が、NST の現場では、COPD の患者の栄養療法において非常に重要なことなども指摘された。輸液に添加する分岐鎖アミノ酸 (BCAA) の含有比率 (Fischer 比) の意義や、消化管を使わない (使えない) 状態から復帰した患者には、グルタミンを経腸栄養の際に添加することが重要であることなど、NST 活動に必要なアミノ酸代謝に関する知識の重要性も指摘された。

(3) 講演 2 : 健康寿命延伸におけるフレイル予防の重要性と栄養戦略

名古屋大学医学部老年科学教室の葛谷雅文教授より、超高齢社会において介護の対象となる人を減らす、すなわち健康寿命を延ばすうえで、フレイルを防ぐことがいかに重要であるかについて講演を行っていただいた。フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアなど、高齢者の活動能力の低下に深いかわりのある概念について、わかりやすく説明していただいた。さらに、フレイルが可逆的であること、すなわち予防可能であること、予防のために実はタンパク質栄養が非常に重要であることが指摘された。70 歳くらいまでは過栄養によるメタボリックシンドロームが問題とされるが、75 歳以降はむしろ低栄養がフレイルを促進することなど、70~75 歳以降を対象としたまったく新しい栄養の考え方が必要であることをお話しいただいた。

(4) 衛生試験法に関する話題

衛生試験法委員会の佐藤雅彦教授、神野透人教授より、試験法に関する書籍作成の進行状況、試験法に関連する新しい情報に関する紹介があった。それらの情報が衛生試験法「追補」として印刷物となるため、追補版 (500 円) の購入を受付けることとした。

(5) その他

第 103 回薬剤師国家試験に関する検討会を 5 月 12 日 (土) にキャッスルプラザ (名古屋市) で開催することが検討委員長の佐藤雅彦教授 (愛知学院大学) から報告された。

来年度も姫野誠一郎 (徳島文理大学) が委員長となって衛生薬学担当教員会議を徳島で開催することが確認された。

来年のテーマとして、平成 25 年度改訂の薬学教育コアカリキュラムで新たに加わったもう一つの SBO「個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する」に関連して、衛生薬学における毒性学教育をテーマとして行うこととした。

以上